

能登半島地震におけるボランティア活動

志賀町赤十字奉仕団

委員長 山本 洋子

グリーンカーテン作りを実施して

1月1日の能登地震で赤十字の事業も出来なくなり残念ですが、皆様の健康が一番です。この度、石川県支部より「仮設住宅にグリーンカーテンを植えれば…」という話があり、グリーンカーテンを植えることにしました。直射日光を避けるためでもあります、育った緑の葉や小さな黄色い花は、心の癒しや目の保養にもなります。ゴーヤは栄養満点で、ゴーヤチャンプルー、ゴーヤ茶、ジュース、天ぷら、フライ、サラダなどいろいろな料理となり食卓を潤します。

多くの実がなり、30cmくらいの大きさになるものも



あって、「食卓に並ぶのがとても楽しみ」との声が聞けてうれしかったです。「30本以上となったので、地震なんかには負けない心と体力をつけ、頑張っています」と言っている人もいました。今後はいち早く元気になって皆様とこれまで以上の事業や勉強会をしていきますので応援をお願いします。



宝達志水町赤十字奉仕団

委員長 柏崎 三代治

仮設住宅訪問ボランティアを実施して

宝達志水町赤十字奉仕団では令和6年能登半島地震で被災された方や被災地の力になれないかと思い、今年の7月から「仮設住宅の方々の心と体の健康」をテーマに穴水町の仮設住宅を訪問しています。

訪問ボランティアでは、心のリフレッシュのための茶話会・音楽鑑賞や体の機能低下予防のための軽体操などを行っています。また様々な要因で外に出られない方の不安

解消のために傾聴ボランティアも行っています。参加された方々と会話をし、一緒に体を動かすことで笑顔が広がり、私達も楽しみながら活動しています。

災害時のボランティアといえば、炊き出しや家財運びをイメージしますが、体力に自信がなくてもできる「心に寄り添う支援」「細くても長く続ける支援」も必要であると感じ、今後もできる範囲で継続していきたいと思っています。

あとがき

「令和6年能登半島地震」「令和6年能登豪雨」により、被災された皆様並びにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。被災地の少しでも早い復旧復興を願い、赤十字奉仕団は活動を続けていきたいと思ひます。

編集委員 寺本、村中、田中、西田

日赤石川県支部のホームページからも奉仕団だよりを閲覧することができます。▶



発行日 2024.10.31 赤十字奉仕団石川県支部委員会 石川県金沢市鞍月東2丁目48番地

赤十字奉仕団 だより



赤十字の基本原則

人道・公平・中立・独立
奉仕・単一・世界性

2024年10月

47号

SEKIJYUUJI HOUSHIDAN DAYORI



| | | |
|---|---|---|
| 1 | | |
| 2 | 3 | 4 |
| 5 | 7 | |
| 6 | | |

〔写真〕

- ① 仮設住宅訪問
- ② ACTION! 無病息災プロジェクト
- ③ 野菜作り
- ④ 金沢百万石まつり
- ⑤ 青少年赤十字トレセン
- ⑥ 金沢市地区バザー
- ⑦ 加賀地区バザー
- ⑧ 志賀町グリーンカーテン、ゴーヤ

ACTION！無病息災プロジェクト 『赤十字農園』

コロナ禍も一段落し、高齢化の進む我々奉仕団も将来に向けて何とかしなければと思っていた一昨年初、県支部より『無病息災プロジェクト』の提案を受け農園での野菜づくりに着手しました。幸いにも畑の無償借地など協力支援して頂ける方も見つかり、素人集団なこともあり様々な意見もありましたが、『赤十字農園』を開園でき野菜づくりをスタートさせることができました。

荒れ地の草刈り、整地、耕作、畝づくりを経て、さつまいもの植え付け、水やり、除草といった作業を進める中で、奉仕団員の家族も手伝うようになり、看板を見て声を

かけてくれる近所の方も増えました。昨年10月に行われた収穫では、予想外の豊作で盛り上がり、子ども食堂などへの寄付や特価での販売により多くの関係者に大変喜ばれました。

今では地域みんなの農園として、玉ねぎや枝豆、大根など少しずつ増やし、無理のない野菜づくりを行っています。奉仕団員の健康づくりや地域交流の場を通じた新たな団員の加入を図っていきたいと思っています。



金沢百万石まつりで救護 & 迷子搜索ボランティア

6月1日(土)、金沢百万石まつりで救護および迷子搜索ボランティア活動を実施しました。1月1日に発生した能登半島地震という大きな災害の復興の中、多くの方々が石川県を盛り上げようと、歴史ある「金沢百万石まつり」が開催されました。我々は「金沢百万石まつり」の救護本部と連携し、百万石行列や踊り流しがされている間、傷病者や迷子がいなか沿道を巡回しました。今回、高校JRCの皆さ

んが熱中症疑いの方を2名、救護班に報告して下さったおかげで、円滑に救護所まで搬送することができました。

お祭りという非日常の中で、普段より長い時間外にいた方、公共交通機関が使えず体調を崩してしまった方など、予期せぬ事例が発生することを改めて気付かされました。



青少年赤十字リーダーシップ トレーニングセンター (トレセン)に参加して

今年は、5年ぶりに2泊3日(7月26～28日)のトレセンを能登青少年交流の家で実施しました。目的は、リーダー性やコミュニケーション力の養成です。内容は、赤十字の七原則・三角巾の利用・国際理解等多々あります。野外活動では、これらの学んだことをグループで協力して各関所を通ります。防災教育では、学校に避難してきた人たちを想定し、どこにいてもらうかを模造紙に書き込みます。能登地震のこともあり子どもたちは真剣に取り組んでいまし

た。野外炊飯やキャンプファイヤーも積極的に協力し合っていました。

最終日、一人一人が学んだことや感想を全員の前で発表しましたが、彼らの成長が感じられました。猛暑の中、スタッフや学生ボランティアの協力で無事に終えることができました。来年もまた子供たちとの新たな出会いがあることを願っています。



「赤十字のつどい」 チャリティーバザーを 開催して

Charity Bazaar



8月4日(日) アルプラザ金沢店で、今年度の金沢市地区赤十字奉仕団チャリティーバザーが開かれました。今回は、元日に発生し各地に甚大な被害をもたらした最大震度7の地震のため「令和6年能登半島地震救援」がテーマに掲げられました。今年度担当のDブロックの8奉仕団の皆さんには、金沢市地区の33奉仕団から提供された協力品の搬入、会場設営、展示販売について行ってもらい、ご活躍いただきました。

開催当日は開店前から入口の外にお客様の列ができ、開店後はカゴから溢れるほど購入される方々が続くなどで大変忙しい時間帯もあり、また、時間を空けて再び来場された方や、販売担当の奉仕団員に労いの言葉をかけてくださる方が見受けられるなど、チャリティーバザーならではの催しとなり、大盛況であったと思っています。

ご来場いただいた多くのお客様と、毎回、会場を提供してくださるアルプラザ金沢店様に感謝申し上げます。



今年の赤十字バザーのテーマは「令和6年能登半島地震救援」。能登のために！と真摯に取り組む姿勢が加賀地区の奉仕団員の皆さんから伝わりました。大きな会場を借り、品物が集まるか・人が集まるかととても心配しましたが、各奉仕団員の努力で会場を埋め尽くすほどの品物を集めて頂きました。多くの方にお越し頂ける様に、九谷焼作家さんのネイルアートや和菓子づくり体験、屋内テントと段ボールベッドを設置した避難所体験コーナーに加え、能美市内ボランティア7団体に販売ブースを出店して頂きました。奥能登から購入した能登物産販売コーナーや、能登牡蠣も完売となる盛況ぶりでした。



バザー売上と寄付金をあわせて35万円弱の義援金が集まり、能登を応援したいという奉仕団員と応援頂いた皆様の熱い思いが伝わるバザーとなりました。